

エゾサンショウウオの保全に関する映像・冊子製作 及び啓発活動

北海道サンショウウオ保全プロジェクト

北海道サンショウウオ保全プロジェクトは、エゾサンショウウオが生息する豊かな自然の象徴である、綺麗な水が流れる池や沼の環境保全活動に取り組んでいます。

本事業では、エゾサンショウウオの生息地が確認されている小樽市内、余市町内、及びエゾサンショウウオ生息地が天然記念物として町指定文化財となっている枝幸町内を対象に、産卵・生態、生息地の環境を調査し、映像と写真撮影を行ってきました。

私達は専門の研究者による調査例が少なく、不明な点が多いとされてきた繁殖の水中撮影に成功しました。しかし、小樽での映像撮影の過程でハプニングがおきました。

これまでの調査でエゾサンショウウオは、毎年同じ場所に産卵をくり返していることがわかりました。その倒木がある産卵場所が、1番サンショウウオの繁殖にとって最適な条件だったのでしょう。前年に続き、多くのたまごが確認されました。

流されないよう木の枝にたまごを上手く、くくりつけている様子が、野生生物の生きていく知恵が感じられます。産卵の撮影後、水中での様子を観察し、幼生の成長の記録をとり、見守る予定でした。



ところが、沢山のエゾサンショウウオのたまごが、その木と一緒に、そっくりそのまま姿を消してしまいました。倒木が処分されてしまったことで、小樽での撮影は残念ながら中断せざるを得ませんでした。

たまごの成長の様子は、余市町で撮影し、ドキュメンタリー映像を制作しました。

3月26日には『自然の神秘 ♪ エゾサンショウウオの繁殖と産卵』と題して、上映会・トークショー・展覧会を開催。

第1部は、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター学術研究員の岡宮久規氏を招いての講演会、第2部は、代表の高橋匠美がトークセッションで解説しながら、上映会も行われました。



スクリーンに映し出されたエゾサンショウウオの繁殖映像に、会場は沸きました。

撮影の過程で、木が切られ沢山のたまごがなくなり、調査と記録が続行できなくなってしまったことから、豊かな自然とサンショウウオ産卵地の保全の課題についても触れました。一般の方々から専門家まで、沢山の質問があり、イベントは大盛況でした。



調査した内容をまとめた小冊子を 1000 部作成。

エゾサンショウウオの産卵地の自然環境の保全促進を図る目的で、代表の高橋匠美がイラストを描きました。

サンショウウオの産卵地は、年々減少しており、その環境とともに保護していくことが大きな課題で重要です。産卵を記録し、研究した様子をイラストや写真と合わせて紹介しています。

北海道大学の学生にも小冊子を配布し、道内外の博物館や学校などに寄贈します。



4月3日から5月8日までは、パネル展&イラストコンテストをウイングベイ小樽にて開催。

主に事務局長の高野宏康が撮影した写真や、解説パネル12枚を展示。

岡宮久規研究員と連携し、発見された幼形成熟のエゾサンショウウオについても紹介。

当初は4月17日までの予定でしたが、北海道自然保護マスコットキャラクター「蝦夷白玉」のイラストコンテストも大変好評で、延長となりました。

前田一步園財団助成事業によって上映会とトークショー、パネル展等を実施したところ、サンショウウオや生息地についてもっと知りたいという声が多数ありました。

新聞やニュースにイベントの記事が掲載されたため、沢山の情報が寄せられました。また、道内各地で上映会やパネル展を開催してほしいというご要望をいただき、大きな反響がありました。

今後もイベントの開催と普及啓発活動を実施し、幅広い世代に、エゾサンショウウオとその生息地の自然環境保全の必要性について、理解促進いただけるよう、力を入れていきます。